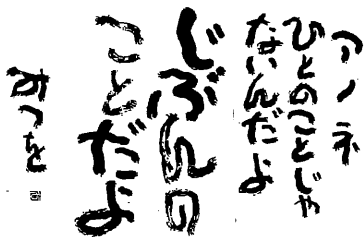


さくら第491号

令和2年11月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7:TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『忘れないための工夫は何か?』

10月25日(日)午前9時から第220回珠算能力検定試験と第130回段位認定試験が福井商工会議所で実施され受験者は、会場前の通路で手指消毒したあと、一人ずつおでこを出して体温測定を受けます。体温の低い人は35度1分で最も高い人は36度2分であり全員がクリアし受験できました。

今年は新型コロナウイルス感染防止で4月の準級と4級以下の検定試験が急遽中止になり、6月の検定試験もすべて中止です。8月は段位だけ福井商工会議所で実施されましたが1級から3級は中止となり、準級と4級以下は塾で行われました。

そしてようやく10月検定は予定通りすべての検定が実施されひと安心です。来年2月14日(日)検定の合格者をふくめて、3月21日に開催される「珠算技能優秀者表式」に参加できる人が決まります。

今回の検定試験会場ではいろいろな出来事がありました。いつも塾での練習のなかで話している事ですが守られていません。黒板やお知らせ用の紙に書いたり印刷して皆さんにわたしてある連絡用紙などを全く見ていない人がいます。

検定試験の会場と開始時刻は「塾報さくら」でひと月前からお知らせしています。受験票にも会場と開始時刻と受験番号などを書いてわたしてあります。コロナ感染防止策で今回の検定試験は受験室が5ヶ所あり、ふだんの2階のほかに6階にもあり同じ級でも分かれていますので、くわしく書いてある用紙を別刷りしてわ

たしてあります。

試験前日の練習でも個別に話していますが忘れたのかもと聞こうという気持ちがないのか当日、驚くことが起きました。「えんぴつ忘れまして」という男子が一人いました。

「ほかの人に借りて来なさいよ」。「貸してくれません」。そこで、もっとていねいに、「お願いします」と頼みなさいなどと話す。

ようやく1本借りて練習していたと思う間もなく「えんぴつ折れました」と言いながら芯を元にもどすが書けるはずがありません。

もう誰も貸してくれないと言うのでしばらくほっておきましたが、数分後に私が持参しているえんぴつ2本をわたし、帰る時にこの机の上に置いておくようにと言うが馬耳東風。

開始15分前になっても2名がまだ入室していない。その一人の親の携帯にかけると子どもが出る。今、どの辺りを走っているかを問えば分からないというのみ。

そこで遅刻者扱いがあるから事故を起こさぬようにと言い、待つことにした。もう一人は起床が遅れた子を乗せて走行中と言う。遅刻者扱いがなければ受験できなかったのである。

受験票をわたす時に幾度となく話し、前日までに念を押し、別の用紙に諸注意を書いてわたしますが、カバンに入れてお終い。

日々の授業のなかでよく話すことがあります。えんぴつをいつも5本以上きれいに削ってください。悪い持ち方をしないこと。練習中は背筋を伸ばしよい姿勢を続けてください。数字はていねいに書きます。はき物がきちんと置かれてあると見た目がいいです。見た目の良さを出すにはいろいろな努力が必要です。

忘れ物をせずに決まり事をしっかり守るためには、上記のような簡単な約束ごとを続けるなかから自分で準備をし、もれていないかをチェックし、確めるという行動をすることです。

家族間でそれぞれの予定表を見ながら話題に出すことで共通理解も深まります。台所のカレンダーに予定表を書き込み互いに話し合い確認することでも忘れは少なくなるでしょう。